

## ②A—4 油脂の変質と栄養に関する研究（第Ⅱ報）

国立栄研 山川喜久江

1. 油脂の著しい変敗が動物の成長を阻害することは周知のことであり、その毒性についても多くの報告がなされている。そこで我々は家庭で使用する場合に起る油の変敗が動物に対して如何なる影響を及ぼすかを知る目的で、本実験を行った。

2. 生後1カ月の雄白鼠28匹を用いて、未処理大豆油を対照（I群）とし、過酸化価（P. O. V.）100の変敗

油投与群（Ⅱ群），P. O. V. 400 の変敗油投与群（Ⅲ群）に分け，2カ月間飼育した。用いた飼料は，各々の油を10%とし，蛋白レベルはカゼイン20%とし，ビタミン類及び塩類は十分に投与した。なおビタミンAは4日毎に1日4単位を経口投与した。飼育期間中の成長，脂肪の吸収を観察し，2カ月後解剖に附し，肝臓中のビタミンAの貯蔵量を測定した。

3. 体重増加率は対照群に較べてⅡ群はやや劣り，Ⅲ群は著しく劣った（対照の75%）。飼料効率（体重増加1g当の飼料量）も同様にⅠ群よりⅡ群，Ⅲ群の順に悪く，対照4.2gに対してⅡ群4.5g，Ⅲ群5.2gであった。脂肪の吸収率はP. O. V. の違いによる有意な差はみられなかった。

このことから考えて，2カ月間飼育におけるP. O. V. の違いによる成長の差は，油の吸収率によるものではなく，他に原因があると考えられる。